

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	パナソニック(株)エレクトリックワークス社 人事・総務部 西日本地区人事部
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中村区名駅南2-7-55
工場等の名称	パナソニック名古屋中村ビル
工場等の所在地	名古屋市中村区名駅南2-7-55
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	電気機械器具及び住宅設備建材の販売
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月17日 ～ 令和6年10月15日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） パナソニック名古屋中村ビル南館11階 人事・総務部 窓口
		ホームページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-586-1333		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

パナソニックホールディングス 環境方針

環境行動指針

私たちは、持続可能な社会の実現を目指し、環境価値の創出を通じた事業発展に取り組みます。そのために、事業活動を通じて環境課題の改善を進めるとともに、社会の人々から共感を得て、環境取り組みを拡大します。

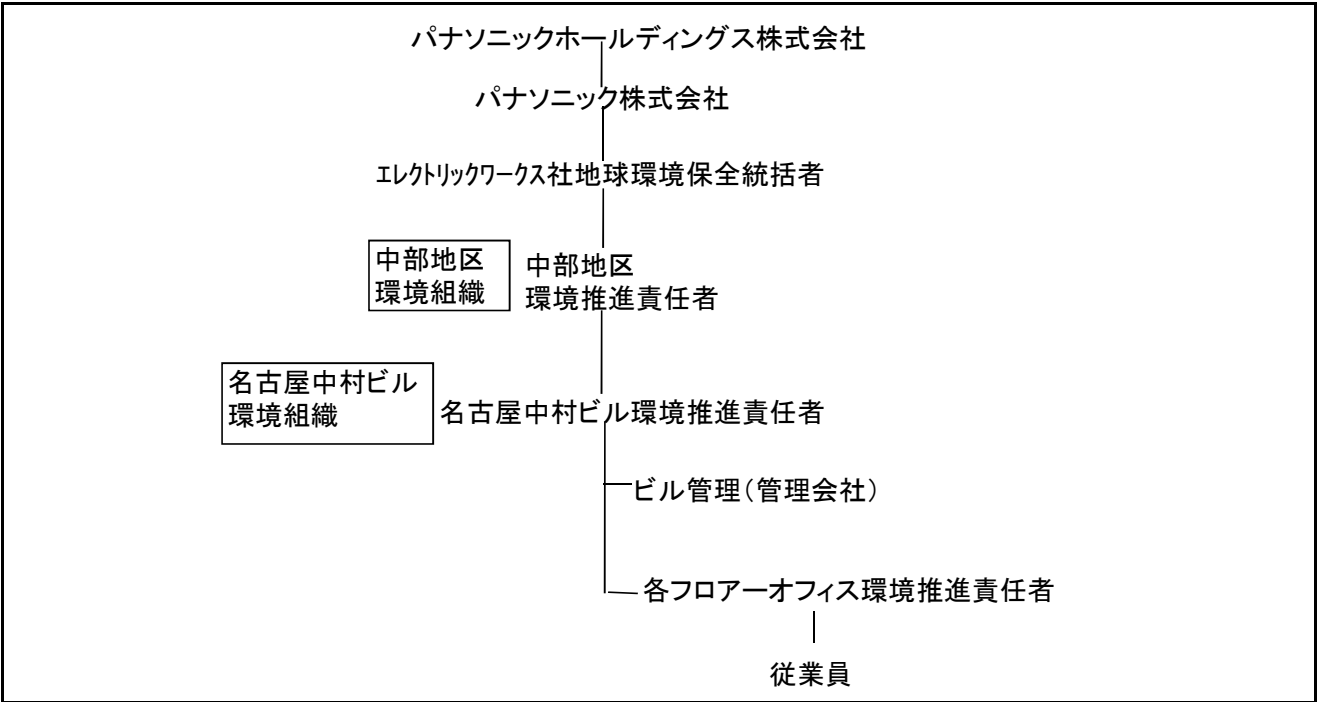
(1) 環境課題への取り組み

生産活動と商品・サービスを通じて、CO2削減に取り組みます。
循環型モノづくりの追求を通じて、資源の有効活用に取り組みます。
効率的な水の利用と汚染防止により、水資源の保全に努めます。
化学物質による人や環境への影響を減らします。
生物多様性への配慮とその保全に努めます。

(2) 社会との共感を通じた取り組み

技術を強みに、お客様の環境価値を創出する商品・サービスを提供します。
パートナー様とともに環境貢献活動を拡大します。
地域社会とのコミュニケーションを深め、協力して環境課題へ取り組みます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1, 308	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1, 308	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	1, 336	t-CO ₂	1, 330	t-CO ₂	1, 334	t-CO ₂	1, 308	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			0. 5	%	0. 2	%	2. 1	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

昨年度は、令和6年度の目標値（対令和3年実績0.5%）を上回り、2.1%削減となりました。試験的に一部の車両を削減・公共交通機関等へ移行したことによるガソリンの使用量を削減できたことが要因になったと思います。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・ I S O 1 4 0 0 1 環境マネジメントシステムによる継続的改善の実施。 ・ 分別パトロールを実施し、再生可能な紙類の分別徹底を各職場に呼びかけ、可燃ゴミ袋への混在をできるかぎり減らすよう努力しています。 ・ 備蓄食品をNP0法人へ寄付し、食品ロスの削減。 ・ 期限間近の備蓄食品を社員食堂でアレンジし提供することで、食品ロスを削減。 ・ 業務での移動に、自転車利用・公共交通機関の利用を推奨。自動車についても可能な限り低燃費車へのシフトを推奨。 ・ 夏季：敷地内の打ち水の実施。（期限切れの備蓄保存水を利用）

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・ 看板（サイン）照明の完全OFF・・・引き続き、可能な期間・範囲で継続しています。週に2日～3日は照明OFF。（昨年同様）
--